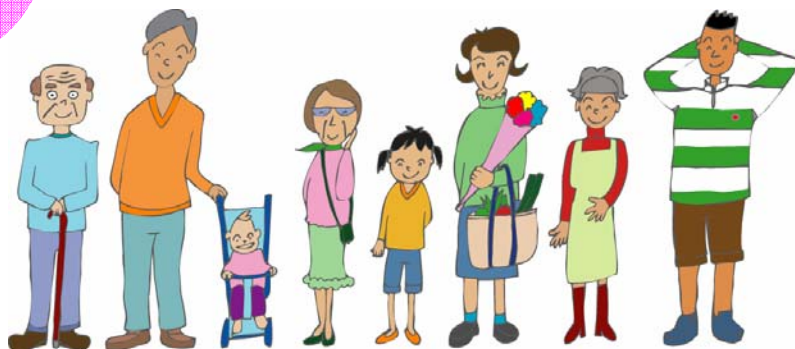


ユニバーサルデザイン

協働によるUDまちづくりの手引き



岡山県

平成19年3月

協働によるユニバーサルデザイン(UD)まちづくりを始めてみよう

ユニバーサルデザイン(UD)まちづくりとは

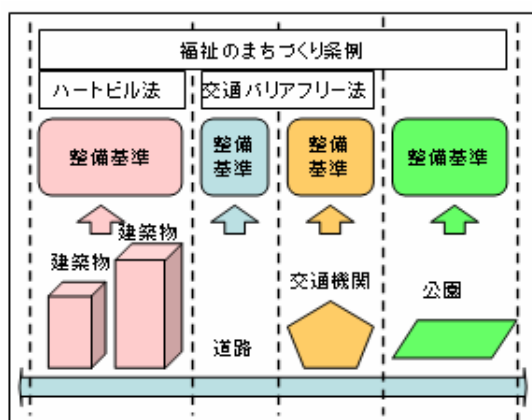
「UDまちづくり」とは、まち全体としての移動の連続性・利用のしやすさ・快適性・情報提供などを高めて、まちの利用者の視点で調査し、できるだけ「多くの」「多様な」人が使いやすいまちをつくることを目的とした計画やその実践のための体制づくりを行うことです。まちを使う多様な人々が参加し、実際にまちを歩いたり、まちの「使いやすさ」「わかりやすさ」「心地よさ」等をマップに整理したりしながら、みんなでまちのユニバーサルデザイン化について考えます。

ユニバーサルデザイン とは 略してUD。今後本紙ではUDと記載します。
できるだけ多くの人々が利用可能であるようデザインすること。あらゆることについて、年齢、性別、能力、国籍など個人の特徴にかかわらず、はじめからすべての人にとって安全・安心な環境を構築することです。

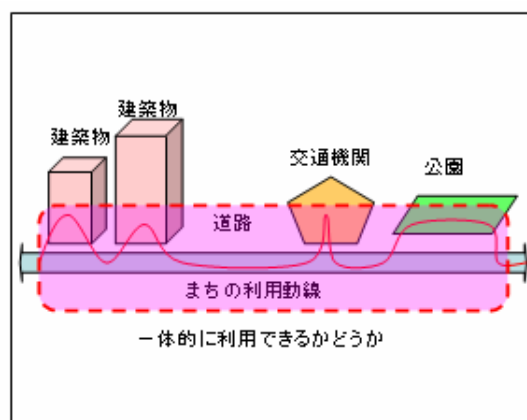
UDまちづくりの目的・効果

UDまちづくりは、「まち全体」を「多様な利用者の視点から」「実際に歩いて気づきながら」「多くの人の目で調べ・考える」ことに特徴があります。

これから説明するように、多様な人が実際にまちを歩いた場合のことを想定しながら、みんなでまちのユニバーサルデザインを考えることを通して、より効率的、効果的で一体的なまちづくりや協働の体制づくりを目指すものです。



従来の法令に基づく施設整備・まちづくりのイメージ



UDまちづくりのイメージ

※平成18年12月にハートビル法と交通バリアフリー法が結合され、新たにバリアフリー法として施行された。

UDまちづくりを進めるには

UDまちづくりを進める上で必要な「人」や「体制」について、以下に説明します。

1. 実行委員会

できるだけ多くの人の考え方を取り入れながらすすめるためには、計画・進行・調整・取りまとめを行う核となる実行委員会が重要になります。実行委員会は、多くの人が参加できる仕組みや、意見の出やすいワークショップの企画（フレームづくり）やたくさんの意見の整理、それを大勢で共有するための情報提示（資料作成）を行います。UDやまちづくり、住民参加に関する知識を持つNPOの会員（建築士や学識経験者、まちづくり活動の経験者等）や企業（設計事務所等）が主体となり「まちづくりの専門家」として、実行委員会をつくります。また、地元市町村の職員がここでは実行委員会のメンバーとして同じ立場で参加することが重要です。

実行委員会のメンバーは、対象地域をよく知っており地域内での調整ができる人、地域外の人との両面で構成されると良いでしょう。地域のまちづくり専門家は、地域を良く知るものとして計画実施の際の参加のための調整や計画策定後の実質的な取り組みのキーパーソンとしての重要な役割があります。また地域外のまちづくり専門家は「地域に初めて訪れる人」の立場で、地域に生活していると気づくことの出来ない新しい発見や広い視点を追加します。

作業の役割分担や地域の範囲によりますが、5～10名が適当です。

2. ワークショップ参加者

ワークショップやまち歩き調査には、地域住民や観光客などまちの利用者である住民の方々に参加の呼びかけを行います。高齢者、障害者、子育て中の人、観光関係者、商店街関係者、商工会議所、まちづくり団体、学生などから性別や年代が偏らないように、さまざまな人に参加いただくとよいでしょう。作業の役割分担や地域の範囲によりますが、20～30名が適当です。

ワークショップやまち歩き調査の準備やコーディネート、当日進行などは、実行委員会のメンバーが中心となって行います。

UDまちづくりの進め方

ワークショップやまち歩き調査を行うことで住民の意見を引き出していきます。良いところや問題点などそのまちの要素を洗い出し、専門家の目でハード面・ソフト面、時間的なこと、可能なこと・不可能なことなどを考えながら抽出した要素を結び付けて計画をつくります。

